



指導員訪問⑥ 6年 特別活動「竜小のために働き隊」

— 下級生に自分たちが学んだことを伝えよう — 里見 真帆 教諭



タクシーの運転手さんと一緒に笑顔で班写真。大広間で向き合って夕食など4年ぶりに制限のない修学旅行になりました。自分から行動を起こしたり、なぜその活動を行うのか、考えが至らなかった里見学級の子供たち。今回、実行委員が掲げた3つの目標に対して、活動の果たす意味を考え、よりよい活動の実現に向けて力を育みたいと願いました。



本時では、成長できたことについて、自分の考えを理由も合わせて相手に伝える姿があったかどうかです。

初めに、5年生にインタビュー、アンケートを提示。旅行への関心、心配事がほぼ同じであることを確認。次に実行委員の目標に対して一度振り返りました。特に「周りを見て行動」では、スクールタクトで互いの意見を閲覧しながら学校生活へ視点を。そして、C4を取り出した後、●T5で立ち止まりました。



協議会では、共感の大切さ以外を引き出す手立て、スクールタクトの有効性について語りました。指導員から、学級会の勧め、合意形成の手法や意思決定との違い、本音で

語る子供をめざす教師の出の例「勉強になったことってこれだけ?」、振り返りの大切さなどを教えていただきました。

実は、上の写真はC13を含めた班がハプニングから脱却し、笑顔を取りもどした姿でした。途中で涙を流しながら、焦っている横顔と私はすれ違いました。集団行動だからこそ、「自分の足りないところ」が見つかり、乗り越えられたのではないのでしょうか。私はいかに解決したのか知りたくありません。



実は、上の写真はC13を含めた班がハプニングから脱却し、笑顔を取りもどした姿でした。途中で涙を流しながら、焦っている横顔と私はすれ違いました。集団行動だからこそ、「自分の足りないところ」が見つかり、乗り越えられたのではないのでしょうか。私はいかに解決したのか知りたくありません。



今後はどう生かすか、竜美っ子にぜひ伝えてほしいと思います。

<授業記録より一部抜粋、編集>

- C1: 急なハプニングとかの中で、周りを見れば、迷いを減らせると思う。
 - C2: 先生だけじゃなくて、授業で前で発表する時もしっかりと聞く。
 - T3: C4さんの書いてあることが聞きたくて、C4さん、読める?
 - C4: 集団行動は1人でやるものではないと分かって、中学生になっても生かしたいと思った。
 - T5: 集団で動くことをたくさんやったね、修学旅行で。集団で動くことのよさって何かあるのかな?
- ※スクールタクトへ記入、互いに見合う—<略>—
- C11: C10さんに似ていて、自分と同じところを見ている人と共感ができる。
 - C12: 自分にはない意見をたくさん持っている。
 - C13: 集団行動することで、助け合ったり、支え合ったりして自分の足りないところを補えるから、何かハプニングがあっても乗り越えられる。